

疼痛医療センター

1. スタッフ

センター長（兼）教授 貴島 晴彦

その他、教授 2 名、准教授 2 名、講師 10 名、助教 7 名、医員 1 名、薬剤師 1 名、看護部長 1 名、看護師長 2 名、リハビリ部門技師長 1 名、理学療法士 3 名

（兼任を含む。また、教授、准教授、講師、助教は特任、寄附講座を含む。）

2. 診療内容

(1) 診療内容の概要

当センターは平成 17 年に設立され、主に非がん患者の慢性痛を対象に、集学的な診療を行っている。痛みは慢性化すると他覚的な医学的所見とは不釣り合いな苦しみや機能障害をもたらす、患者本人はもとより、患者家族、周囲の人々、更には社会にも悪影響をもたらす。当センターは、難治性の慢性痛を対象に、診療科・職種を越えた体制を整え治療することを目的として設立され、診療の中心を担う麻酔科ペインクリニックに加えて、脳神経外科、整形外科、神経内科・脳卒中科、神経科・精神科、リハビリテーション部などが属しており、定期的なカンファレンスを通して有機的に機能してきた。

(2) 診療上の特徴、特色

1) 難治性疼痛の診断：

麻酔科ペインクリニック専門医と理学療法士が中心となり生物心理社会モデルに基づいた総合的・多面的な診察・評価を行い、原因の特定できない慢性痛患者の診断と治療方針の提示を行っている。評価が難しい患者に対しては、定期的な多職種カンファレンスでの専門的な検討や入院による集学的評価を行い、適切な診断と治療方針の決定につなげている。

2) 難治性疼痛の治療：

患者個別のオーダーメイド治療を行うことを特徴としている。麻酔科ペインクリニック外来で薬物療法、神経ブロック療法、ペインリハビリテーション、認知行動療法に基づいた患者指導を個々の患者によって選択・組み合わせることが治療の中心となるが、当センター所属の各診療科で実施している高度なインターベンショナル痛み治療・ニューロモデュレーション（麻酔科ペインクリニック、脳神経外科）、手術療法（麻酔科ペイ

ンクリニック、脳神経外科、整形外科）を積極的に治療に取り入れることができるのが大きな強みである。また、麻酔科とリハビリテーション部が協働して集学的なペインリハビリテーションを短期入院で実施し、成果をあげている。

(3) 対象疾患

慢性腰痛、脊椎術後遺残疼痛、術後遷延痛、外傷後遷延痛、脊髄障害性疼痛、末梢神経損傷後疼痛、複合性局所疼痛症候群、慢性頭痛・顔面痛、脳卒中後疼痛、その他の難治性神経障害性疼痛、原因を特定することが難しい慢性痛など

3. 診療体制

(1) 外来診療スケジュール

- 1) 月曜日から金曜日の午前（麻酔科ペインクリニック外来における初診診療）
- 2) 木・金曜日午前に医師・理学療法士による集学的評価

(2) 診療体制

麻酔科ペインクリニック専門医が中心となり初診の評価・診察を行い、センター所属の診療科・部門（脳神経外科、整形外科、神経内科・脳卒中科、神経科・精神科、リハビリテーション部）の担当医・担当療法士と適宜連携した診療を行う体制をとっている。

4. 診療実績

難治性慢性疼痛患者 147 名（麻酔科ペインクリニックへの紹介患者を除く）の紹介があり集学的評価を行った。うち 38 名は病名・痛みの原因の特定と病因に基づいた治療方針を紹介元へ報告し、その他の 109 名は診断結果に基づいて当センターで治療を行った。病名の内訳を表 1 に示す。

表1 新患者の内訳

病名	人数
脊椎術後疼痛症候群	10
その他の遷延性術後痛	2
複合性局所疼痛症候群	3
外傷後遷延性疼痛	9
末梢神経障害性疼痛	12
脊髄障害性疼痛	7
脳卒中後疼痛	2
頸肩腕症候群	16
腰部脊柱管狭窄症	9
椎間関節性腰痛	3
仙腸関節痛	5
その他の慢性腰下肢痛	5
変形性膝関節症	7
慢性頭痛	4
慢性顔面痛	9
慢性会陰部痛	4
慢性腹痛	3
慢性関節リウマチ	1
その他の一次性慢性痛	36

5. その他

先進国では慢性痛対策が重視され、集学的痛みセンターが設立され機能している。わが国ではこの方面の対策に遅れがあるが、当センターは、この問題の解決に中心的な役割を果たし、国の進める集学的痛みセンター設立事業のモデル病院となっている。また、厚生労働省慢性疼痛診療体制構築事業の基幹病院として、近畿地区における高次医療機関の役割を担っている。